

2007 年 医療統計学実習コラム

4 月 10 日

日曜は天気も良かったので家族会議の結果、お花見に行くことに。もう恵子先生は將軍塚にタクシーで行くと決めていて、しかたなく追認する。神宮道のセブンイレブンはものすごい人々。花見弁当なんぞ売っているが、値段ばかりで見かけ倒し、シンプルにおにぎり 4 個、から揚げ串、焼き鳥串、カルピソーセージなるものをゲットして一路タクシーで將軍塚へ。將軍塚は去年の秋に紅葉を見にきた際、桜がきれいと思っていたのだが、いまひとつぱっとしない。八重桜はみごとだったが、やっぱり紅葉かな、などと思って展望台に登ってびっくり。途中の踊り場からみる桜はそれはそれはきれいで、下から見るのとは大違いだった。残念だったのは、せっかくウグイスや野鳥が鳴いているのに、雅な音楽がスピーカーでがんが鳴っていたこと。あれさえなければいいのだが。でも將軍塚、お薦めかも。

4 月 17 日

土曜日、恵子先生は東京で講義があり昼前にでかけていったので、このところラーメンモードに入っていたので、お昼はラーメンを食べに行くことに。京都のラーメン、とくにとんこつ背脂ちゃっちゃ系は好みではなくおいしいと思ったことはないのだが、最近いろんな店があるとのことで、雑誌に掲載されていた高倉二条にある[高〇二△]に行くことに。なんでもとんこつと和風だしの W スープ、麺は全粒粉を使用と記事からはよさそうな雰囲気がかえる。さっそく行くとなんと行列。10 名くらい並んでいたが、まあ回転が速そうなのでおとなしく列に並ぶ。早く食わせると大暴れしたくなる気持ちを抑え、これだけ並んでるんだから期待できるんだろうとごまかしごまかし 10 分くらいで店に入る。ラーメンとつけめんがあり、つけめんにも心が動いたが、今はラーメンモードなのでラーメン煮玉子入り 780 円を頼む。

でてきたラーメンはちょっと色が濃く、麺は茶色。スープを一口すすって、「うん?」、麺をすすって、「あれ?」。期待したほど、というより、それ以前にうまくない。スープの味が好みでないということもあるが、麺がぜんぜんマッチしていない。いやこれはラーメンではなく、別な食べ物である。せっかくラーメンモードに入ってラーメンを食べにきたのに、それはないよなあ。かといって、新しい麺類としてうまいかという、別にそうでもない。隣の親子連れは「おいしいねおいしいね」といいながら食べているが、どうかしている。もう人生も半分以上過ぎ、残り何回食事ができるかと思うと一食損した気分である。だぶん高倉二条には二度と行くことはないだろう。

次の日、近所の「ぎおん森幸」に恵子先生とお昼を食べに行き、中華弁当 1000 円を堪能し、一食とりもどしたのは言うまでもない。それにしても高校、大学時代によく食べた春木屋、丸福といった荻窪ラーメンがなつかしい。ああいったラーメンを京都でも食べたいものであるが、無理なのだろうなあ。

4月24日

土曜日、医療統計・CRCコース合同お花見会を開催した。過去にもこのコラムに書いたが、秘密のお花見スポットである。「秘密なので教えない」と書いたら、MCR1期生の松澤くんがひどく気になって、研究が手につかないほどだという。だからといっても秘密なのでそう簡単に教えるわけにはいかない。そこで特別に松澤くんを今年のお花見に誘って、参加するんだったらしかたがないので教えてあげる、ということにした。ところが、松澤くん、学会だとかで参加できず。残念だが、今年は学位論文をまとめずに、来年も学生でいたらまた誘ってあげるからね。

なにはともあれよなよなを8缶持つ。大丸に行って平野で人数分のおかずセットと正起庵でつくねとねぎ串、錦にでて中央米穀でおにぎり20個を買い求め、いざ現地へ。みなさん三々五々現れ、お花見会のはじまり。飲み物は各自持参としたのだが、なぜかよなよながずらっと並ぶ。曇りの予報が晴れたり曇ったりで、気候もちょうどよく、春の風がとても気持ちよかった。しかも桜は満開。(これはほんとです。)今年はずっとより一週間早いお花見だったからか、まわりにもご近所の方たちと思わしき団体がかなりお花見にきていた。飲んで食べて2時間くらいで解散。オープンキャンパスで野間は河野くんに斬られるのだろうか？

すっかりいい気持ちになったのだが、かといって晩ご飯を食べないわけにも行かないので、バスに乗って古川町商店街の端っこで降り、商店街で晩ご飯の買い物をして帰ることに。東大路に面してリカーマウンテン東山店がオープンしたので、いつの間にかワイン2本となんだかいろいろと買わされてしまう。商店街では、大根、菜の花、てんぷら、D食などを買って帰宅。だいぶ回ったので、1時間ほど一眠りしてしまった。このあと年に一度のレスルマニアを堪能したのはいうまでもない。はしご戦はとても危険なので、禁止にしたほうがいいのかもしれない。

5月1日

世間では大型連休とかで京都も観光客で溢れかえっているようだが、先生はそんなこととは一線を画して仕事である。今月は7日にまた学部の講義があるし、18日、19日は泊り込みのセミナー、26日は日本計量生物学会という同好の士のシンポジウムがあり、前日の25日にはチュートリアルで疫学研究のデザインについて講演、はたまた20日は日本薬剤疫学会・日本計量生物学会共催の特別シンポジウムが急遽開かれることになり、そこでも講演しろとお達した。そのほか、肝がん臨床試験の結果解析、環境省そらプロジェクトの会議(学童コート、幼児ケース・コントロール、成人調査)、もちろん医療統計の講義もあります。

5月8日

みなさん連休はどう過ごされたでしょうか？ もちろん予習・復習、あるいは自分の勉強をしていたこととは思うけど。(まさかのんびり休んでいた、なんてことは…)先生は予定通り、28日、30日、3日、4日は大学で仕事。25日にある日本計量生物学会チュートリアルセミナー「疫

学研究のデザインと曝露効果の推定」の準備、肝がん臨床試験のデータ解析(TAE と肝動注がおなじ結果、意外でしょう)を順調にこなすことができた。しかも予定よりも一日早く片付いたので、延び延びになっていた日本計量生物学会 25 周年記念特集号の論文も書くことができた。(3 月末締め切り、あまり気乗りがしなかったので編集委員長には先生の手稿は待たないでいいから、とあってあった。)連休はまとめて仕事を片付ける、という生活が3年続いてしまった。どこかで断ち切らないと、じっと手を見ることになってしまいそうである。

5月15日

いまサヤエンドウが旬のようで、丸太町のサンプラザでも上賀茂のまるまると豆の入ったサヤエンドウを売っている。土曜日、ほたての貝柱を買ったので、ふと思いついてサヤエンドウと炒めてみた。サヤエンドウを油で軽く炒めてお湯をいれ、そこに1/2にスライスしたほたても入れてボイル。お湯を切って、再び油でほたて、サヤエンドウをドウチ、オイスターソース、塩、胡椒、砂糖、しょう油を合わせて炒める。これがまたえもいわれぬ絶品となりました。

5月29日

先週、先々週と忙しかった。先週は23日から26日まで珍しく長期の東京出張。23日なんかあなた、10時から15時まで微小粒子状物質の会議、17時から19時半までそらプロジェクト成人調査の会議。よれよれになったものの、ちょうど恵子先生がCRCコースの実習でがんセンターにきているので、築地のすし清と一緒にひさしぶりにうまいすしを堪能した。

あけて24日は応用統計学会だが、こちらはパスして統計数理研究所で打ち合わせと25日のチュートリアル準備。昼は広尾の箱根暁庵でうまいそばを堪能する。夜はCRCの実習打ち上げに合流して、築地の越後叶屋で新潟の山海の珍味(豆腐の燻製と地鶏の塩焼きがうまかった)と日本酒(鶴齢、本州一、もう一種類は忘れた)とへぎそばを堪能する。

25日は先生のチュートリアルは午後からなんだが、午前中は応用統計学会のチュートリアル「多重比較」があるため、ひどい雨の中、朝から三軒茶屋まででかける。電車が込んで10時ぎりぎりに会場の昭和女子大に到着したらぎっしり満員。なんで「多重比較」にこんなに人が、というくらい。仕方ないので後方に並べられた椅子席で聞くとはなしに聞く。

お昼も雨は降り続けているので、大森先生に頼んでサンドイッチを買ってきてもらう。腹ごしらえをして、14時から16時半まで「疫学研究のデザインと曝露効果の推定」。こちら200名くらいの参加者で大盛況でした。予定通り時間が足りなくなり、積み残しが出たが、まあこんなもんだらう。終了後ぐったりしたまま理事会が19時まで。19時から秋葉原で飲む約束をしているのに間に合わないではないか。30分遅刻して到着。先に来ていたお二人はすでに始めていてビールと焼酎が終わったところだったので懸命に追いつく。最初はビールをもらい、お刺身盛り合わせ、生岩牡蠣をいただき、日本酒に変えて本州一、十四代本丸、飛露喜、と飲んだがいずれもうまかった。魚ものどぐろ塩焼き、きんきの煮付けと食べでがあり、ふじつぼは珍味だった。締めいただいた味噌汁も出汁が利いていてしみじみとうまい。

もちろんお値段もよかったが堪能して帰るともう11時。26日は9時からシンポジウムがあるので6時半には起きないと間に合わない。シャワーを浴びてウイスキーを一杯やるともうすでに「起きたときに行くモンね」状態と化し、案の定目が覚めたら8時10分。急いでしたくして、10時半に会場着。お昼は評議員会ででた弁当で済ませ、総会が終わると大森先生たちと直ちに品川へ。ひとつ早いのぞみに変更して一路京都に。帰宅して食べたご飯と日本酒のおいしかったこと。あわただしい5月だったけど、6月も7月も8月も9月もあまり変わらないのが恐ろしい。

6月5日

土曜日はオープンキャンパスお疲れ様。分野紹介ではすべりまくりの連続で、特に医療統計はひどかったので、来年も野間くんに汚名挽回のチャンスを与えることにしよう。

さて専攻のイベントも終わり、このところ忙しかったのも一区切りついたので、土曜はみんなで打ち上げ。医療統計の分野紹介に貢献してもらったCRCコースも合流して大いに盛り上がった。タカシマヤのデパ地下で、そら豆、もろきゅう、551の餃子、小えびのてんぷら、豆藤のおから、きゅうりの酢の物、正起庵の焼き鳥(つくね、ももねぎ、アスパラ巻き)、三木鶏卵の出汁巻きなどなどを買って込んで宴会のはじまりはじまり。実はそらまめには欠かせない理由があって、CRCコースの鈴木さんが「そら豆はなぜ黒いか、それには深いわけがある」となぞの絵本「まめとすみとわら」を読んで聞かせるイベントも予定されていた。この話には前振りがあり、鈴木さんから「まめとすみとわら」を聞いた恵子先生はたいそう立腹され、沼部先生に「そんなに怒らなくてもいいじゃないですか」と言われたほどだという。どんな話か一同楽しみにしていたのだが…。案の定、大森先生大激怒であった。「まめとすみとわら」について、深く知りたいというあなた、CRCコースの鈴木さんを尋ねていこう。

よなよなエールとインディアンペールエール、赤ワインなどを飲み、いろいろなものを食べ、すべった野間にはフルバージョンの医療統計分野紹介を発表させたりと、宴は大いに盛り上がった。最後にお昼のお弁当の残りのご飯で「雲仙旅のビールカレー」まで食べ、すっかりいい気持ちになり、夜風にふかれてぶらぶらと歩いて帰った。

6月12日

毎年この時期になると梅酒を漬けている。ホワイトリカーではなくいい焼酎で漬けるとおいしいとか、最近では日本酒で漬けるとおいしいというので、日本酒でも漬けている。ただ、あの甘いのがなんとかならんかと去年は砂糖ゼロで漬けてみた。1年経って出来具合はどうかと土曜に味見をしたら…、これが酸っぱくて飲めない。そうだよなあ、梅だもんなあ、と先人の知恵に感心してしまった。困ったのはこの酸っぱい梅酒、証文の出し遅れだが(死語か?)砂糖を足したところなんとかなった。危うく1年の努力を無駄にするところであったが助かった。

6月19日

このところ、デパ地下の戦略にすっかりやられている。なにがどうやられているのかというと、お酒売りのウィークリープロモーションとかいう奴である。タカシマヤも大丸も週代わりで、全国の蔵元から厳選されている(のかどうかはわからないが)、いかにも酒一筋でやっていますという感じの朴訥そうなおちゃんが、話が上手なわけでもなく、積極的に呼びかけるわけでもなく、ただ客が来るのをぼーっと待っているだけなのだが。

これに恵子先生がさながら誘蛾灯に引き寄せられる蛾のごとく、必ずといっていいほど捕まるのである。必然的に先生も付き合うのであるが、一昔前の日本酒のプロモーションと違い、今はどこの蔵もいい酒を持ってくる。いわゆる試飲なのだが、恵子先生は必ず全部飲ませろという、しかも高いほうから。小っちゃいカップといっても昼からすきっ腹に日本酒を3~4杯飲めば酔いますよ、あなた。またこれがただうまいとかではなく、「さっぱりしていて」とか、「酸味が利いて」とか、「ほんのりと麴の香りが」などと言おうものなら、おっちゃん俄然やる気を出して次々飲ませてくれる。そうすると「それじゃあ」と立ち去るわけにはいかないではないか。

最近買った(というか買わされた)のは、会津末廣「亀の尾純米大吟醸」、広島西条鶴「純米生酒」、信州七笑「吟醸爽笑」と「純米吟醸山笑」、昨日は福井の都錦という蔵がタカシマヤに来ていて、父の日なので若い娘さんたちがおしげもなく4合3500円もする純米大吟醸を購入していたので驚いた。ま、例によって一通り試飲したのだが、この純米大吟醸はうまかった。するする喉を通り過ぎる。でも父でもないのにそんなに高い酒は買えないので純米吟醸を試飲したところ、こっちのほうが甘口で酸味が立っており我が家好みだったので純米吟醸を購入した。じつはタカシマヤにいく前に、錦市場の津乃喜で「亀の尾純米原酒いづみ橋」を買っていたため少々重かったが、金曜の夜、国立環境研の新田先生、大森先生、医療疫学の山崎先生と上記の「山笑」と「末廣」を空けてしまったので、我が家の酒庫日本酒部門がちょっと危機的状況だったのだが窮状が救われた。

6月26日

最近疑問に思っていること

医療統計の講義、実習もそうだが、このところ教務委員としてコアの聴講をされていて感じることは、授業開始ぎりぎりの駆け込み、さらには遅刻が多い、ということ。だいたい大学なんていうところは、授業開始時間になってようやく先生はおもむろに部屋を出て、講義室に到着するのは5分後くらいが普通であってだよ、先生が学生のときには「授業開始後30分経っても先生が来なければ、自然休講」という不文律があったくらいである。

しかるに社会健康はどうか? 学生がくる前にたいてい先生がきてスタンバっている。プロジェクターやパソコンの準備の都合もあるとはいうものの、こんな先生達はほかにいるだろうか(いやない、反語だぞ)。学生として先生よりも遅く講義室、実習室にくるなんてことは今後恥ずかしくてできないのではないだろうか?

最近疑問が解けたこと

毎年なんで前期はこんなに忙しくてたいへんなのか、と疑問に思っていた。今回コアの聴講をしてようやくわかった。コアを全部一人でしゃべっているのなんて先生だけじゃないか。ましてや疫学まで 2 コマ出張して話しているのである。その上、毎週きちんと送られてくる 33 通のレポートを読まなければならないし。これからは手抜きで行こう、手抜きで。

というわけで、レポートに「へげっ」とか「ふおっ」とかしかコメントが書いていなければ、それは先生の手抜きだと思ってあきらめてほしい。

土曜日、ひさしぶりに大学のクラス会があった。そう、なぜか中原先生が講義の中で説明していた「保健学科」のクラス会。保健学科といってもいまの医療職養成の学科ではなく、講座は人類生態学、疫学、保健管理学、成人保健学、母子保健学、保健栄養学、保健社会学、精神衛生学、看護学の 9 講座があって、学部から公衆衛生関連の講義、実習を受けていたわけだ。(その後、看護、臨床検査などのコースが「保健学科」となったので、先生が統計数理研究所に移ったくらいのこと「健康科学・看護学科」と名前が変わってしまった。)

先生は疫学教室の出身。なので、疫学の講義もしているんだよ。「疫学とはなにか」も学部のときに買ったんだ。

12 名集まり、幹事はなにを思ったか「飲み放題」なんかを頼んでいて、飲み放題の日本酒がうまいわけではないのだが、幹事も「好きな日本酒を頼め」。ところがよくしたもんで、飲み放題の日本酒でいい、という奇特な人もいたので、飲み放題はそいつらに任せ、こっちはこっちで十四代本丸、黒龍、翠露、本州一と飲みかつ食べる(なんだ 5 月 29 日のコラムと代わり映えしないなあ)。

7 月 3 日

いよいよ今日で実習も終わり、あとは発表会を残すだけとなりました。またぜひ実習したい、という人は単位を落として来年再履修するか、あるいは後期「解析計画実習」を選択してください。後期はひよっとすると大森先生のコラムが読めるかもしれません。

趣味はなにかと聞かれると、「講義」とか「研究」などとテキトーに答えておけば、相手のほうが勝手に感心してくれるのだが、あながち間違いではないもののそんなものが趣味であるはずがない。では趣味はなにかというと真っ先にあげなければならないのは SF だろうなあ。正確に言うと趣味「読書(SF)」なのだろうが、SF は断じて読書ではなく way of life である。(大げさなのも SF の特徴。)こればかりは小さいときから大好きで、佐藤家では何度か「SF 禁止令」なるものがでたほどである。(先生の目が悪くなったのは高校受験のときで、親は受験勉強で悪くなったと思っているだろうが、SF 禁止令のせいで大っぴらに読めなくなったため、豆電球の明かりで読んだり、教科書で隠して読んだりしていたため、てき面に目が悪くなった。)なにしろ中 2 のときから「SF マガジン」を定期購読していたほどである。最近は一ローダ

ンシリーズ(家にはこのシリーズ専用本棚があり、先生は第 1 巻からすべて初版本を持っている)か、エンダーサーガくらいしか読まなくなりましたが、それでも「エンデュミオンの覚醒」のような傑作に当たるとうれしい。(そのためにハイペリオンを読むのはつらかったが、覚醒を読めたので帳消し。)

ほかにもジャズを聴くことやゲーム(最近はまったくやらなくなったが麻雀、囲碁、モノポリー、ドラクエ、なんでも好きだ)、料理、おいしいお酒を飲むことなどが趣味といえば趣味なのだが、SF がまさに way of life であるように、だんだんとこれらのものも趣味なのか日常そのものなのかが判然としなくなっている。料理なんて毎日のようにやっているわけだし、おいしいお酒だって特別のときに飲むのではなく、お酒を飲むときにはいつもおいしいお酒じゃないと飲まないし。そう考えると、講義や研究が趣味だというもけっこういい線いっているかもしれない。なににより(準備も含めて)講義や研究は楽しいではないか。